



ロータリーは
機会の扉を開く

2020~2021 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人



RI 会長テーマ

会 長 高木 久子
副会長 齊藤 俊明
幹 事 山口 徹

= 会長指針 =

途中困難最後必勝

・ ・ ・ 例 会 記 録 ・ ・ ・

9月第3週例会 2020年 9月17日(木)

ソ ン グ : それでこそロータリー ボックス : 20,000円 (報告者 門田 崇会員)
本日出席率 : 54.55 % 前回修正後61.36% (メークアップ10名) (報告者 千田喜一郎会員)

★ 会長の時間 : 高木久子会長



多様性、公平さ、開放性に関する方針

ロータリーの最優先事項は、会員基盤の成長と多様化によって地域社会をより良く反映したクラブをつくり、あらゆる文化、経験、アイデンティティの人の参加を促すことです。

ロータリーは、さまざまな人が参加できる開放的な組織、すべての人に公平で、善意を築き、社会に役だつ組織づくりに努めています。

この目標を実現するため、RI 理事会は、多様性、公平さ、開放性に関する声明を採択しました：

ロータリーは、持続可能な変化を生むために人びとが手を取りあつて行動する世界を目指すグローバルネットワークとして、多様性を重んじ、年齢、民族、人種、肌の色、能力、宗教、社会的地位、文化、性別、性的指向、性自認にかかわらず、あらゆる背景をもつ人の貢献を称える。

ロータリーは、少数派グループが会員およびリーダーとして参加できる機会が多く存在する多様で、公平で、開放的な文化を育む。

多様性、公平さ、開放性を最優先とすることは、会員と職員を含む全員の責務です。



◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆



1 大船渡市生活福祉部子ども課長より

企業の結婚支援に関する意識調査協力のお願いが届いています。 締切り 9/25

2 ガバナー事務所より 米山記念奨学会研修会中止の連絡が届いています。

第7回日台ロータリー親善会議福岡大会開催中止の連絡が届いています。



本日のプログラム



クラブ奉仕アワー

★ 菅野嘉洋クラブ奉仕委員長



本日はクラブ奉仕アワーということでお時間をいただきました。

本当はこのお時間を利用して、私の職業に関連する情報提供ということで、働き方改革推進支援センターの紹介をさせていただきたいと考えておりましたが、さすがにそれだけではクラブ奉仕アワーという時間にはそぐわないと思いますので、クラブ奉仕について、その中でもとりわけ「親睦」についてお話をさせていただきたいと思います。

働き方改革推進支援センターについてはプログラムの後半で少しご紹介させていただきたいと思います。

さて、クラブ奉仕についてのお話です。どちらかというと年数の浅い会員に向けての内容となりますが、ご容赦願います。

現在大船渡西ロータリークラブには「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」「青少年奉仕」と大きく5つの委員会があります。「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」「青少年奉仕」の4委員会が対外的な奉仕部門であることに対し、「クラブ奉仕」は対内的な性格が強い委員会です。

かつて国際ロータリーの理事を務められた菅野多利雄さんは「クラブ奉仕」を家庭に例えられております。家庭がしっかりしていなければ外に出て思う存分に活動できるものではない。だから対外部門で十分な奉仕活動をするためには、まずクラブ内がしっかりしていないと十分目的を達成することができない。クラブ会員の気持ちがバラバラでは成果はあがらない、ということを述べております。このことは、ロータリークラブが組織として十分能力を発揮するためには、クラブ奉仕がしっかり役割を果たしていなければならないということを指しているのだろーと思われまゝす。

それでは「クラブ奉仕」の役割とはどのようなことでしょうか？

大船渡西ロータリークラブ細則の第8条（委員会の任務）においては、クラブ奉仕委員会について「会員間の親睦を深め、クラブの結束と向上と強化を図る」と定められております。

つまり「会員間の親睦を深める」ことが、クラブ奉仕委員会の極めて重要な役割となります。

クラブ会員の構成は多彩です。年齢構成も職業構成も、そして人生における経験も様々です。このように全ての面で異なった人々が会員になっているのですから、会員相互の親睦といっても、なかなか容易なものではありません。そのような中で「親睦を深める」には具体的にどのように行動すればよいのでしょうか。それにはまず、相手を知る、ということが最初の一步だと私は思います。

相手を知る・関心を持つということは、相手に対して敬意を払うということです。その逆は無関心です。クラブ奉仕委員会の中に親睦活動部門があります。親睦委員には新会員が配属されることが多いですが、まず新会員がしなければいけないことは他の会員を知る・覚えるということです。会場の設営やお客様の案内等はもちろん親睦委員の仕事としてありますが、一番の仕事は会員を知ることだということを新会員や年数の浅い会員は理解していただきたいと思います。

相手を知ること・関心を持つことは親睦を深めることに直結します。人間同士、合う・合わないはありますから、全ての会員と仲良くというのは難しいかもしれません。しかし、お互いの考え方、人間性等を理解することは、組織の円滑な運営には欠かせないものと思われまゝす。

まだ年数の浅いロータリアンの方々においては、敬意を忘れないというのは当然ですが、ぜひ一步踏み出して先輩のロータリアンの方々がどのような人物でどのような考えを持っている人なのか、少しでも多く交わり知っていただきたいと思います。それは必ず自分自身を磨くことにもつながると思いますので積極的にその機会を探してみてください。ただ、ロータリアンは平等であるといわれますが、周りの方に敬意を払うこと、特に今までクラブを創り支えてきた先輩方に敬愛の念を抱くことは当然のことですので、そ

れは決して忘れないでいただきたいと思います。

そして、先輩ロータリアンの方々におきましては、踏み込んできた後輩ロータリアンを広い心で受け止めていただきたいと思います。また、困っている後輩ロータリアンから助けを求められたり、相談されたりしたときはぜひ力を貸してあげてください。時には筋道が違うようなことを求められることがあるかもしれませんが、その時は正しい筋道を教えてあげてください。どうかよろしくお願いします。

人数が集まって何かをすることが難しい昨今の情勢において、親睦活動も大きく制限されてしまっていますが、集まれる機会が貴重となったことで逆に親睦を深めることに繋げていければと思います。

最後にもう一度国際ロータリー元理事である菅野多利雄さんの言葉をご紹介させていただきまして結びいたします。

「ロータリーには、カリスマ的存在もないし、また偶像崇拜も禁物である。要はお互いをよく知り、理解して真の友人となり、お互いの職業の価値を認識することである。そしてその延長線上にいる人々に影響を与え、自分を必要としている人々のために救いの手をのばすことを心がけるべきである」

以上、ご清聴ありがとうございました。